

行事報告

広域アジアものづくり技術・人材高度化拠点形成事業—CIS 活動報告(インドネシア)

広域アジアものづくり技術・人材高度化研究センター 運営委員会 委員 菅哲男
接合科学研究所 客員教授

2018年度のインドネシア CIS (カップリング インターンシップ)が、インドネシアで 12 月 9 日-12 月 22 日の期間に行われました。大阪大学の外国語学部 1 名、経済学研究科 1 名、工学研究科 2 名、インドネシア大の人文学部 2 名と工学研究科 2 名の計 8 名の学生が参加しました。接合科学研究所の橋本特任講師が、CIS の全工程を引率しました。

現地では 2 日間の事前研修をインドネシア大 (デポック)で行い、日本企業の説明やコミュニケーションの研修、溶接基礎知識の教育、CIS 実習テーマの検討などを実施しました。12 日からの休日を除く 5 日間は、セランにあるチレゴン・ファブリーケーターズ(PTCF)社で企業実習を実施しました。PTCF は、IHI の子会社であり、現地で 34 年の歴史のある「発電用ボイラの製造メーカー」です。実習としては、会社説明(組織、業務内容)、溶接講習、品質管理・工程管理などの説明を受けると共に、工場見学(ボイラ・プラントの製造)や、PTCF の経営者や現場スタ

ッフとの面談を行いました。又、18 日には建設中の Lontar 火力発電所(バンテン)も見学しました。学生は、実習テーマの「労働安全の課題と対策」に関して、連日真剣に取り組みました。終盤に体調不良者が出ましたが、全員が助け合っ

てテーマのとりまとめをしました。最終日の 21 日にはインドネシア大で、学生は実習テーマの検討結果について発表しました。最終報告会には、インドネシア大学の Baiduri 部長(International Office)、Winarto 教授、PT.CF の永吉社長、Ardiansyah 部長、大阪大学の菅客員教授、橋本特任講師ら計 15 名の参加があり、活発な質疑応答が行われました。永吉社長からは、「安全対策に関する貴重な提案が出ている」とのコメントがありました。

学生は、「現地企業のものづくり現場」を体験すると共に、実習テーマの討議を通して「異文化コミュニケーション力」を向上させており、大変有意義な活動でした。アジアのエネルギーをもらって、22 日に全員無事に帰国しました。

